

【結果分析】

集団宿泊教室の自己評価からは、木上小学校が育成を目指している「読解力・判断力・協働力」のうち、特に協働力が大きく伸長した3日間であったことが分かる。

また、今回のモデルプログラムである2泊3日（テント泊・野外炊飯・ホットサンド作りを含む）だからこそ得られた学びも明確に見えてきた。

1 全体分析

（1）協働力の高まりが顕著

各活動の平均を見ると、すべての活動で高い評価となった。

活動	協働力（3.0満点）
ナイトゲーム	2.7（90.0%）
ペーロン船	2.7（90.0%）
テント設営	2.7（90.0%）
カレー作り	2.7（90.0%）
ホットサンド	2.7（90.0%）
集団生活全体	2.8（90.3%）

児童の記述からも、

「みんなで力を合わせた」「助け合えた」「息を合わせた」「役割分担できた」「できない友達を手伝った」などの言葉が数多く見られた。

特にペーロン船では、一人の力では船は進まず、全員の息が合ったときに大きな成果を実感できたようである。

また、テント設営や野外炊飯では、役割を分担しながら協力することで初めて成功する活動であり、「協力の必要性」を体験的に学んだことが推測できる。

（2）判断力の向上が見られた

判断力は、以下の結果である。

活動	協働力（3.0満点）
ナイトゲーム	2.2（73.3%）
ペーロン船	2.8（93.3%）
テント設営	2.6（86.7%）
カレー作り	2.6（86.7%）
ホットサンド	2.6（86.7%）

初日のナイトゲームでは不安や緊張があり、教師への依存も見られたが、活動を重ねるにつれて、「先生に聞かずにできた」「次に何をするか考えた」「自分で役割を見付けた」「火加減を考えた」など、自ら考えて行動する姿が増えている。

これは、2泊3日の中で経験を積み重ねたことで、自信が育った成果と推測できる。

(3) 読解力は今後の課題

読解力は、以下の結果となった。

活動	協働力 (3.0 満点)
ナイトゲーム	2.2 (73.3%)
ペーロン船	2.2 (73.3%)
テント設営	1.7 (56.7%)
カレー作り	2.5 (83.3%)
ホットサンド	1.8 (60.0%)

一方で記述を見ると、「先生の話聞いた」「説明を理解できた」という内容が多く、本来の読解力である【情報を整理する】【手順を理解する】【相手の考えを受け止める】【状況を読み取る】という部分までは十分に意識されていないことが読み取れる。

特にテント設営では、「相手の考えを聞けなかった」「手順が難しかった」という声もあった。今後は、「説明を聞いた」＝読解力ではなく、「聞いたことを基にどう理解し、どう行動したか」まで振り返らせることが必要である。

2 2泊3日だからこそ得られた学び

今回のプログラム最大の成果は、単なる体験活動ではなく、『生活そのものが学びになったこと』にある。

1泊2日では活動が中心になりがちだが、2泊3日では、テントで寝る、朝起きる、荷物を整理する、食事を作る、片付ける、仲間と過ごすという生活全体を経験できる。

児童の記述にも、「次の人が使いやすいようにした」「布団運びが大変だった」「5分前行動ができた」「班長会議の内容を伝えた」「役割に責任をもった」など、活動だけではなく生活面の成長が数多く見られた。

これは2泊3日だからこそ得られる大きな教育的価値ではないかと思う。

(1) 野外活動

テント宿泊の意義

テント設営では、仲間との協力、手順理解、問題解決、責任分担が必要となる。

また、普段当たり前にある家、ベッド、エアコンなどのありがたさにも気付く機会となった。「生活をつくる経験」を通して、自立心が育ったことが大きな成果と言える。

野外炊飯（カレー）の意義

今回の活動の中でも最も総合的な学びが見られた。児童は、食材を切る、火を起こす、時間を考える、役割分担する、後片付けをするという一連の活動を体験した。

その結果、読解力 2.5、判断力 2.6、協働力 2.7 と、3つの資質・能力がバランスよく高まっている。

特に、「自分から仕事を探した」「薪を増やした方がよいと考えた」などの記述から、自主性の育成が見られる。

ホットサンドづくりの意義

災害時を想定した活動として大変意義があった。児童からは、「災害時に役立つと思った」「火がつかない友達を助けた」「自分で考えて行動した」という声があった。単なる調理体験ではなく、自分の命を守る力（防災教育）につながる学習になっていると感じた。

3 今後の生活へのつなぎ方

今回の宿泊教室で身に付いた力は、学校生活の中で生かしてこそ本物になる。

(1) 協働力

学級活動、委員会活動、運動会、縦割り活動で「みんなで成功させる経験」を積み重ねる。

(2) 判断力

先生に聞く前に一度考える、自分でできることを探す、次の行動を予測することを意識する。

(3) 読解力

話の要点をつかむ、しおりや掲示を見る、相手の気持ちを考えることを日常的に続ける。

4 まとめ

今回の集団宿泊教室では、児童一人一人が仲間と支え合いながら活動し、「協働力」を大きく伸ばすことができた。また、テント宿泊や野外炊飯、ホットサンドづくりなど、普段の学校生活では経験できない活動を通して、自ら考えて行動する「判断力」も高まった。

一方で、説明や手順、相手の思いを正しく理解する「読解力」については、今後さらに意識して育てていく必要があるところである。

特に2泊3日の生活体験は、活動だけでなく「生活そのもの」が学びとなり、責任感や自立心、仲間を思いやる心を育てる貴重な機会となった。

この経験を一過性のものにせず、「自分で考える」「仲間と協力する」「相手を理解する」姿として日々の学校生活につなげていくことが大切である。

子どもたちは、この3日間で確実に成長した。今後は、この成長を学級や学校生活の中で発揮し、木上小学校が目指す「判断力・読解力・協働力」をさらに高めていくことが期待される。